

平成30年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立糎谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2学年では、大きく平均正答率が向上し、目標値に近づく値となっている。
- ・2,3学年では思考・判断・表現の観点で目標値並み、あるいは目標値を上回っており、グループでの話し合い活動や、自分の言葉で表現する機会を多く設定したことが成果につながった。

(2) 課題

- ・全ての学年で、技能の観点で目標値を下回っており、引き続き資料を読み取り、活用する力を向上させることが課題である。
- ・1,3学年では、社会的事象についての知識・理解の観点で、目標値を6～9ポイントほど下回っている。スモールステップで知識の定着を図るとともに、単元ごとの小テストの実施など、工夫が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成30年度結果	平成29年度結果	平成28年度結果
第1学年	4つの観点全てで、目標値を下回っている。		
第2学年	4観点中、2観点で目標値を上回ったが、技能の観点で-4ポイントとなった。	4つの観点全てで、目標値を下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	4観点中全てで、目標値を下回っている。特に知識・理解の観点で-6ポイントとなった。	4観点中、3観点で目標値を上回ったが、技能の観点で-4ポイントとなった。 (第2学年時)	4つの観点全てで、目標値を下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を10ポイントほど下回っている。	目標値を8ポイント下回っており、太平洋ベルトの成り立ちに関する問題で誤答が目立つ。	目標値を8ポイントほど下回っており、地理的分野・歴史的分野ともに資料を読み取り活用する力に課題がある。	目標値を9ポイントほど下回っており、基礎的・基本的な知識の定着が課題である。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を7ポイントほど上回っており、学習意欲の向上がみ受けられる。	目標値を8ポイントほど上回っている。	目標値を4ポイントほど下回っており、世界の気候や産業に関する問題での誤答が目立つ。	ほぼ目標値並みの数値であるが、世界の諸地域の、産業に関する知識の定着が課題である。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ほぼ目標値並みの数値である。	やや目標値を下回っており、地理的分野において、統計を活用し表現する問題での誤答が目立つ。	目標値を4ポイント下回っており、地理的分野における資料の読み取りや活用が課題である。	目標値を6ポイントほど下回っており、近世から近代の日本に関する基礎的・基本的な知識の定着が課題である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
小学校での既習事項との関連を意識した発問で、意欲を喚起する。またICTを活用し、視覚的に興味を持たせていく。	資料を読み取り、自分の考えをワークシート等に記入する作業等で、表現力の向上を図る。	地図、グラフの作成と着色作業を行う。また、資料を読み取る場面を多く設定することで、資料活用力の向上に努める。	単元ごとの小テスト等、反復学習で知識の定着を図っていく。1年生では、世界の地域別の小テストを実施する。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ニュースや新聞等の身近な話題を活用し、興味関心を喚起していく。また、歴史的分野では、絵や写真を描かせることで、興味・関心を持つきっかけ作りをする。	学習内容によって、グループ学習（4人）を取り入れ、班で考え、まとめる活動や発表する場面を設定し、表現力の向上を図る。	地図、グラフの作成と着色作業や資料を読み取る場面を多く設定することで、資料活用力の向上に努める。	単元ごとの小テスト等、反復学習で知識の定着を図っていく。2年生では、都道府県や地形に関する小テストを実施する。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ニュースや新聞等の身近な話題を活用し、興味関心を喚起していく。また、歴史的分野では、絵や写真を描かせることで、興味・関心を持つきっかけ作りをする。	学習内容によっては、グループ学習（4人）を積極的に取り入れるとともに、生活体験に則したテーマで話し合いを行う。	地図、グラフの作成と着色作業や資料を読み取る場面を多く設定し、資料活用力の向上に努める。	単元ごとの小テスト等、反復学習で知識の定着を図っていく。3年生では、時代別テストを実施する。